

第1回 新しい村魅力アッププラン検討委員会 議事録

日時：令和4年8月9日（火）14時～16時20分

場所：新しい村 村の集会所

出席者：

宮代町長	新井 康之	途中退席
委員（敬称略）：		
1 委員長	平林 信隆	リモート参加
2 副委員長	折原 正英	
3 委員	島村 忠雄	欠席
4 委員	並木 幸夫	
5 委員	武笠 正明	
6 委員	蛭田 秀人	
7 委員	大澤 亨	
8 委員	茂木 俊二	
9 委員	八木橋 孝雄	
10 委員	中嶋 庸子	
11 委員	酒井 重信	
12 委員	千葉 美香	
13 委員	村田 昭仁	
14 委員	吉澤 弘子	

事務局：

宮代町産業観光課	小川課長、榎本副課長、鈴木主幹、立見主任
パシフィックコンサルタンツ（株）	新田、酒本、橋爪

1. 委嘱状交付

2. 町長挨拶

3. 委員紹介

各委員の自己紹介が行われた。

4. 委員長、副委員長の選出

委員長に平林委員、副委員長に折原委員が選出された。

5. 議題

・農のあるまちづくりの考え方と新しい村の抱える課題について

事務局：（資料2説明 略）

委員長：説明の内容について意見・質問等があればお願いしたい。

委員：今回、1年かけてアンケート調査等により課題を整理したと理解したが、まとめられた資料を確認するということが、それとも今回の意見を通じて、新たな課題の視点等を盛り込めると考えてよいか。

委員長：基本的には、利害関係者の方からの意見から課題をまとめてきたものであるもので、本資料をベースにしなが、課題として欠けている部分があれば補完していきたい。

委員：新しい村の課題に関してはしっかり書かれているが、宿泊施設やグランピングといった記載が引っかかる。魅力アッププランは、おおよそ10年後を見据えて施設を変えていきたいという認識でよいか。

委員長：その通りである。

委員：そうすると、10年後にグランピングは流行っているのか。お金をかけて施設を整備しても、将来グランピングが流行っているかは分からない。清流があたり海があたり、自然環境だけで十分に目的となるものがあるからグランピングに行きたくなる。この町に関して、それだけの環境があると言えるか。

委員：環境に関して意見したい。蛭が復活して生息できる場所になるかは分からない。また、新しい村を通る川もどぶ川であり、宿泊地として人を呼べるだけの魅力につながるかは分からないが、都市圏と環境面での格差があればあるほど、宮代町に東京の人は来訪すると思う。

指摘されていることはごもっともであるが、皆さんが、なぜ新しい村が好きなのか教えてほしい。個人としては、ほっつけという「歴史」と「里山の環境」である。それに加えて農産物直売所がある。環境面の視点がおざなりになっている。例えば、田んぼにも絶滅危惧種もいる。私から見れば、宝物と言える町おこしの資源が多くある。環境に目を向けて守るべきである。

新しい村が始まる時、「一周遅れのトップランナーになる」を合言葉に事業を行ってきた。一周遅れで整備も十分でない状況であったからこそ環境が着実に残っている。この既存の環境が新しい村の大きな魅力だと思う。既存のものを大切に守り育てることが重要。新しく整備することを否定しているわけではないが、元気な人が一人一人やれることを発揮し、活動していくことが、東京近辺から人を集めることにつながると思う。

環境面の保護に関しても、別枠で方針を立てていただきたい。

委員長：2つの意見について、事務局にこの意見のベースとなった部分を確認したい。最初に、グランピングについて、投資回収のイメージやこの需要が10年スパン等であるか、また、この場所が適しているか。もう1点、新しい村の強みは、環境・歴史・自然であると考えられるが、それにより他地域と差別化できるか。この2点に関して、事務局で回答があればお願いする。

事務局：今回は課題のまとめとして資料を整理しており、現時点では導入を決定しているものではない。本日の会議の位置づけは、魅力アッププラン策定に向けて、課題を共有し、魅力アップ方針について検討するものである。

次回の会議で、導入機能やその規模について議論したい。例えば、宿泊機能としてグランピングを導入するかどうかについては、今回の議論としては、宿泊というものを課題として認識し、次回以降の検討会で具体的に検討していくことを想定している。

委員長：今回は、方針を整理するための課題について認識することが目的であり、グランピングを含めた宿泊

が課題であると認識したうえで、次回以降、より具体化した内容について議論していくということでしょうか。

事務局：補足すると、宿泊機能に関する課題については、アンケート調査結果から整理した。しかし、現場の状況を存じてない人の意見である可能性も否定できない。また、グランピングは、宿泊機能の例示として示している。現場の状況を理解している各委員の生の声とアンケート調査結果等の客観的な意見をすり合わせて、魅力アップ方針について話し合っていきたい。今回の資料はあくまで、そのためのたたき台だと思ってほしい。

委員：宿泊を完全に否定している訳ではなく、新たに予算をかけて施設を整備する必要があるかが問題だと考えている。既存施設を利活用し、宿泊できる環境を整えられれば良いのではないかと考えている。新たに施設を設けるくらいであれば、老朽化している既存施設の修繕等に予算をかけてもらいたい。新しい村には、バーベキュー用の水場、トイレにシャワーもある。キャンプであれば、いつでもできるが、手ぶらで楽しむグランピングに関しては、新たに施設を整備する必要がある。キャンプに関しては、大きな追加投資も必要なく十分支援できる。

事務局：そのような意見を今後、是非議論してほしい。1点補足すると、仮に投資するとした場合、町の税金だけではなく、その他の投資可能性についても考えていきたい。

委員：九州の星野リゾートは、何十億円も投資して、職員が棚田の稲刈りや田植え等の管理を行うことで、訪問者は棚田を見ながらお茶を飲む等の体験ができる環境をつくりあげている。このような体験を提供する環境を整備し、運営していくためには、かなりの投資が必要になる。新しい村がそのような施設とするべきかは疑問である。

宿泊施設を整備するのであれば、桶川の事例のように、コテージを建てずパークキャンプ等、既存施設を活用し、大きな追加投資をせずに農体験ができる施設を整備するべきである。遠方から車でアクセスも可能であり、施設規模を考えると妥当ではないか。大きな施設を追加で整備することは、投資に対する資本効果、収益を考えると厳しいと考える。

委員長：新規に大きな投資をするより、現状の施設を活用しながら、需要にあわせていくべきという意見と認識した。

委員：新しい村の魅力は何か。ほっつけの周りは電気の光が入らず、電柱もないため、夜の星がきれいに見える。このような恵まれた環境を活かした魅力アップを考えたい。

宿泊施設を作る必要はなく、例えば農家の家を借りて、農家の朝の作業を体験する等、農体験を含んだ宿泊も考えられる。宮代町には農家も多く、大きい屋敷も多い。子供が家を出て空き部屋もあると思う。農家の家を借りて活用することも一つの方法である。宮代町の魅力も伝わり、農家に宿泊した人が、農業に興味を持つきっかけになる。新しい施設を作るのではなく、今ある環境を活かし、魅力アップにつなげたい。

「新しい村の魅力を発信することが、宮代町の魅力の発信につながる」という表現は、誰のためか。環境を守ることが共通的なバックボーンであると、話が通る気がする。新しい村をどういう風にしたいのかという目標像の共通認識がなければ、まとまらないのではないかと。個人的には、自然環境や農業、農家を守りたいと考えている。

委員長：新しい村、宮代町の強みは、「環境」であると認識し、新しい村の環境をより活かすべきという意見と理解した。「宮代の自然と共生するデザイン」にそのような意図も含まれていると感じるが、補足説明

をお願いする。

事務局：農体験などもさることながら、自然の中で過ごす時間自体を評価する意見もあった。施設自体も老朽化が進み、今後リニューアルしていく必要はある。その際に、自然環境を守るとともに、デザインを活かすべきという意見もあった。そのため、自然環境のよさとデザインを掛け合わせ、より魅力を高めしていくことを意図し、「宮代の自然と共生するデザイン」として整理している。

委員長：今回は課題の整理という認識であり、意見いただいた内容に関しても考慮しながら検討を進める。

委員：宿泊施設に関しては、否定的な意見しか聞けていないため、肯定的な方がいれば意見を聞きたい。

委員：今回の会議で、どこまで具体的に話を進めるべきか伺いたい。ボーイスカウト経験があり、新しい村でキャンプを行っていたため、宿泊施設に関して意見することはできるが、今回は具体的な内容まで詰める必要はないと考えている。今回は、課題のまとめを確認し、課題について不足事項や追加事項がないか検討すべきだと考える。

委員長：今回は、魅力アップ方針検討に向けた課題の整理が議題であるため、各論に関して深く議論する必要はないが、整理した課題に対して不足事項や質問事項があれば共有したいと考えている。

委員：宿泊施設に関しても具体について意見はあるが、次回以降話をさせていただく。

委員長：課題の中で不足事項があれば、意見いただきたい。

委員：「みどりの食料システム戦略」は知っているか。現在、農業で用いられている化学農薬や化学肥料の使用率を30～40%削減し、日本の耕作面積全体の0.5%である有機農業の取組面積の割合を25%まで拡大する等の目標を国が掲げている。

宮代町でも、「農」のあるまちづくりを掲げているので、有機農業を進めていけるとよい。虫がなぜここに根付かないか。化学農薬等を使っていることも一因として考えられる。まち全体として環境に配慮した農業に取組めると新しい村の魅力アップにもつながるのではないかと。

委員長：環境に配慮した食料、農業の仕組みに関する内容も取り入れたいという意見として承った。

委員：「体験がイメージできるPR」について、Googleで「直売所 埼玉県」と検索しても、新しい村は検索結果に出てこないが、しらおか味彩センターは出てくる。この差は何か。「新しい村」にキャッチコピーを付け強調することに加え、直売所などにも認定基準があると思うが、認知度の改善に向けた取組が必要である。現在は、ネット社会であり、新しい村は場所も分かりづらく、宮代町の外から人を呼び込むためには、検索エンジンにおいて引っかかりやすくする、SEO対策等も必要である。

委員長：検索エンジンに引っかかるような仕組みを検討する必要があるという意見と理解した。

委員：人材育成について、資料P26の結果をみると半数近くの人には後継者がいない。まだ考えていないとしている人も含めれば、7割の生産者が廃業の可能性がある。結果として新しい村への納品量も7割減少する可能性もある。農家の平均年齢は67歳であるため、10年後、77歳になると農業を続けられない農家が増加する。今後の課題として、物品が販売できないことも考えられるため、農家・就農支援の「継続」ではなく「強化」にすべきである。特に、今年の雹被害によって、ブドウ農家やナシ農家はやる気がなくなっている人も多くいる。これまで継続して育ててきた果樹を切ることになりかねない。新しい村は、20haある水田で米を作っているが、その一部を果樹農園として拡大する等、宮代の果樹栽培も継続していくシステムを検討する必要がある。農業資源はあると思うが、活かしながら強化していかなければ、10年後にはブドウもナシもなくなるという危機感を持っている。米

も大事ではあるが、その他の生産物も継続する方法を考えたい。

株式会社新しい村は町が出資している法人であるので、これから宮代町全体で狭小農地が放棄され・荒れる可能性もある中で、その農地を近隣の人が市民農園として活用する等、仲介の役割を担い、マッチングを行うシステムが必要ではないか。遊休農地で米も作らず、農業も行っていない農地もある。農家・就農支援の「継続」ではなく「強化」にすべきである。

委員長：後継者問題等の観点から、危機感を持っているため、農家・就農支援の「継続」ではなく「強化」にすべきであるという意見と理解した。

事務局：「継続」というよりは、「強化」の方が正しい認識と考えるので修正する。

委員：SDG s が国連で採択されている。言葉だけの上滑りになる危険性もあるが、持続可能性の視点についても考える必要がある。新しい村は、20 年前、一周遅れのトップランナーとして始まったが、20 年経過した現在、魅力アップを図るのであれば環境面でも農業面でもトップを走るべきだと考える。安心安全な食料を供給する新しい村というような内容も大切ではないか。環境の視点から言えば、SDG s には「陸の豊かさを守る」という目標がある。環境以外の面でも「働きがいも経済成長も」、「つくる責任つかう責任」等、新しい村の事業に該当するものはあると思うので、SDG s の内容も意識してアピールするべきだと考える。

委員長：新しい村における SDG s への貢献の本質は、環境や食の安全、環境に配慮したサステナブルな農業につなげるものと認識している。

委員：人材育成について、1 つ追加するならば、新しい村の場所としての課題は述べられているが、生産者・加工者の視点からいうと、第三セクターというよりも指定管理者の人材育成の視点もある。新しい村の整備から 20 年が経過し、ベテランの職員も多く、職員の高齢化も進んでいる。これから、キャストを育てなければ、現在の職員が退職した際に、現在の運営水準を維持できるか心配である。農地・農園の管理も必要であるが、時間をかけて指定管理組織内部の将来に向けた人材育成も重要である。

委員：その通りである。社長からも、「10 年後、20 年後に皆さんはいないですよ」と言われており、10 年、20 年後には、現在の社員は 3、4 人しか残らないことになる。ベテラン職員から技術や知見を継承できる機会は今しかないと考えている。また、ベテラン職員は年齢から、どうしても腰が重く、動作が遅くなってしまいう心配もある。アグリ部門では新規で若手の職員を 2 人採用したが、今後も人材育成として、採用活動の強化や今いる職員が長く働ける環境づくりが必要と認識している。

委員長：指定管理組織も含めた、若手人材の育成が必要という意見と理解した。

・魅力アップ方針（案）について

事務局：（資料 3 説明 略）

委員長：まず、資料 3 の P7 ポジショニングについてと P8 コンセプト（案）について意見交換を行いたい。

委員：「本気で農を志す人を応援する」という記載があるが、社員の育成は重要だが、利用者に関して、そこまでのレベルでの支援が必要か。新しい村にこの機能を持たせることは余分な負担になるのではないか。農業支援の程度について議論してもらいたい。

事務局：担当組織内でも議論があった。新しい村だけではなく、宮代町の産業観光課としての取組と連携が必要になると考える。新しい村だけに担わせるのは難しいと考えているが、「本気で」という表現を

採用したのは、後継者問題を踏まえると、今後、支援を強化するべきと認識しているからである。そのために町と新しい村が連携する必要があると考えている。

委員： どういう形になるかは別として、新しい村の部門を広げることになるのではないかと感じる。先ほどの折原委員のいう後継者とは少し異なる議論もあるかと思う。

委員長： 後継者との関係性、町との連携についてクリアにはできない状況の中で、コンセプトの中に入れるかどうかにについて検討する。農業を志す人を支援することは、後継者不足の視点から危機感もあったので、盛り込んでいく形でこの場では了承いただければと思う。
最も議論すべきは P9 の魅力アップ方針であるため、意見がなければ、P9 についての意見をいただきたい。

委員： 宿泊機能の記載はやはり引かかる。知らない人は「何か大きいものができるのではないかと誤解される危険性があり、表現は考えるべきである。

委員長： 新しい宿泊施設を整備するということだけでなく、既存施設や他との連携という意図も含んでいるが、方針としての考え方を事務局に確認したい。

事務局： 宿泊施設に関しては様々な意見があったが、農家民泊の窓口機能を担ってもらうこと等、多様な方法を想定している。施設そのものよりも、滞在型の利用促進という考え方が大切だと考えている。サービスとして、どう位置付けるかは検討が必要であるが、滞在型の利用促進という方針は大きく異なることはないと認識しているため、表現を工夫しようと考えている。
例えば、既存の民間企業のサービスの活用や、地域資源を活かす等、様々なアイデアがあると考えられる。具体的な取組はこれから考える必要があるが、表現も修正したい。

委員： 「デザインコードの設定」とあるが、PR の強化の要素であるような気がするが、意図を少し説明してほしい。

事務局： ご指摘のとおり、PR 力の強化として捉えることもできると思う。自然環境の中で滞在し、快適な利用を促進するために、デザインを統一することで、空間の質を高めることを意図している。

委員： デザインコードとは、例えば、ヨーロッパの街並みで屋根や色を統一するなどといったイメージでよいのか。

事務局： 一体の施設と分かるように、建物やサイン等に共通した色や形を使うことをイメージしている。

委員長： デザインコードに関しては、具体的には今後説明してほしい。宮代町も高さ制限等、統一性も大切にしているため、景観の統一は今後のリニューアルの中で考えを継承していくことが必要である。

委員： 「宮代の自然と共生するデザイン」について、5 月の連休のほっつけの風景は野草が敷き詰めたように生えており、きれいであるが、連休中にその野草は刈られてしまう。こうした風景も隠れた魅力と考える。草刈りをするなどというわけではないが、自然の良さを見せる工夫があってもよいのではないかと。管理者は、野草を刈ることを仕事として行っているが、野草も魅力と感じており、草刈りのタイミングとして、連休の時期を外すといったこともあってよいのではないかと。

働く職員の新しい村の魅力に対する意識改革が必要だと考える。山崎山は手つかずではなく管理された山であり、新しい村の職員の樹木の切り方も個人的には問題があると考えている。樹木の管理方法についても基準を決めるべきである。

委員長： 草刈りや樹木の管理方法も重要であるという意見と認識した。

- 委員：8月6日、7日は、新しい村が県民便りに載っていたこともあり、来訪客が多かったが、8日には来訪者数も大きく減少していた。曜日考えたPRが必要である。平日は高齢者が来ており、土日は、子連れが来る。地域と年齢層、曜日を考えてPRをうまくやるべきだと考える。
- 関東圏に関する認知度が整理されているが、宮代町の住民でも知らない人はいると考えている。そのため、PRを考える際にはターゲットの整理が必要である。来訪者数が多すぎても十分な対応ができず、リピートしてもらえない可能性もあるため、年齢層や地域の区分を設けたPRが必要だと考える。
- 委員長：地域や年齢層にそったPRと、来訪者の平日と週末の平準化のために様々な媒体の活用や取組みが必要という意見と認識した。
- 委員：方針2について、生産者、販売者の立場から、魅力ある直売所や売り場の構築、利用しやすい売り場を作る、といった現場に関する記載もしてほしい。農業や農体験、デザインも重要であるが、直売所の建物があることも新しい村の特徴の一つと考えている。老朽化した施設の更新に含まれるのかもしれないが、文字として方針に入れてほしい。
- 事務局：大事な意見だと思うので、ご意見を踏まえて方針に組み込みたい。
- 委員：老朽化する施設の更新について、新しい村ができて約20年経ったが、周辺設備に関しても改修・改善、修理・修繕が行き届いてないところがある。デザインも大切だと思うが、設備を長持ちさせる、もしくは修繕しやすくする工夫等の取組も必要である。
- 事務局：もっともな意見である。今回の魅力アッププランを整理する中で、施設の整備更新にあたって、何年に何が、どのように作られたのかの調査も行う予定である。更新のスパンや施設の長持ち、改修しやすい構造についても、お金がかかることになるので、町の財政部局と調整しながら、予防保全的な修繕・更新等のあり方についても計画の中に盛り込んでいきたいと考えている。

6. 今後のスケジュール

今後のスケジュールに関して、資料4に基づき事務局より説明を行った。
スケジュールについて特に意見はなかった。

7. 閉会